



令和8年度 尚絅大学・尚絅大学短期大学部入試日程

総合型選抜・社会人選抜選考日程 ※第1回総合型選抜はエントリー方式					
入試区分	実施学部・学科	エントリー期間	選考日	出願許可選考結果連絡	備考
総合型選抜〈第1回〉 (エントリー方式) 一次選考	現代文化学部	令和7年9月1日(月)～9月12日(金)	9月20日(土)	9月30日(火)	・一次選考は無料で受験可能です ・出願が許可された方は、二次選考へお進みください
	生活科学部				
総合型選抜〈第1回〉 (エントリー方式) 二次選考	こども教育学部	令和7年9月30日(火)～10月17日(金)	書類審査	11月4日(火)	11月14日(金)
総合型選抜〈第2回〉 社会人選抜〈第1回〉	食物栄養学科 幼児教育学科	令和7年9月16日(火)～9月26日(金)	10月11日(土)	11月4日(火)	11月14日(金)
総合型選抜〈第3回〉(自己推薦型) 社会人選抜〈第2回〉		令和7年12月1日(月)～12月12日(金)	12月20日(土)	12月25日(木)	令和8年1月16日(金)

※こども教育学部・短期大学部幼児教育学科は武蔵ヶ丘キャンパスで実施します。

学校推薦型選抜(併設校・指定校・一般)選考日程					
入試区分	実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
本学 学校推薦型選抜 (指定校・一般・併設校)	現代文化学部 生活科学部 こども教育学部	令和7年11月4日(火)～11月14日(金)	11月22日(土)	12月1日(月)	12月12日(金)
	短期大学部 食物栄養学科 幼児教育学科		11月23日(日)		
地方 学校推薦型選抜 地方会場 (指定校・一般) 【福岡市・鹿児島市・宮崎市】	現代文化学部 生活科学部 こども教育学部	令和7年11月4日(火)～11月7日(金)	11月15日(土)	12月1日(月)	12月12日(金)
	短期大学部 食物栄養学科 幼児教育学科				

外国人留学生・外国にルーツを持つ生徒対象選抜選考日程				
実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
現代文化学部 生活科学部 こども教育学部※	令和7年11月4日(火)～11月14日(金)	11月22日(土)	12月1日(月)	12月12日(金)
短期大学部 食物栄養学科 幼児教育学科		11月23日(日)		

※こども教育学部のみ外国にルーツを持つ生徒対象選抜は実施しません。

編入学選抜選考日程				
実施学部・学科	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
生活科学部〈第1回〉(社会人対象も同一日程) こども教育学部〈第1回〉	令和7年12月1日(月)～12月12日(金)	12月20日(土)	12月25日(木)	令和8年1月16日(金)

○本学では、Web出願と募集要項(冊子)による2通りの出願方法が利用できます。
詳細については尚絅大学・尚絅大学短期大学部ホームページをご覧ください。

後 塞	かつてはここで学び、夢を語った場所に今は別の立場で立っている。当時は考えもしなかったことを、今では毎日考えている。行事の裏側、誰かの安全、言葉の重み。思い出の場所はこんなにも多くの手で支えられていたんだと、やっと気づく。(A・U)
--------	---

○皆様のご意見・ご感想をお寄せください。 編集・発行/尚絅学園 編集スタッフ/久野恭義、水政行弘、倉寄真優、古澤千鶴、西村奏美、有働碧依、藏原信博
〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78 TEL.096-364-0116 FAX.096-363-6520 メールアドレス koho@shokei-gakuen.ac.jp



尚絅大学 尚絅大学短期大学部
尚絅高等学校 尚絅中学校 (中高一貫)
幼保連携型認定こども園
尚絅大学附属こども園

尚絅大学・尚絅大学短期大学部ホームページ
尚絅中学校・尚絅高等学校ホームページ



礎

ISHIZUE

尚絅学園広報誌

2025年 春夏号

Vol. 43



尚絅学園キャラクター
「花くま」



尚絅大学附属こども園

Vol.43 CONTENTS

尚絅大学 尚絅大学短期大学部	P1 - P2
尚絅中学校 尚絅高等学校	P3 - P4
尚絅大学附属こども園／寄附者芳名録／古本募金／新任教職員紹介	P5
令和6年度決算の概要と事業報告／令和7年度事業計画	P6 - P9
INFORMATION	P10
入試日程	裏表紙





尚絅大学 尚絅大学短期大学部

尚絅食育推進シンポジウム

令和7年1月19日(日)に第6回尚絅食育推進シンポジウムを開催しました。大学1号館10階ホールにおいて「子どもの未来を拓く保育・食育を目指して～保護者とともにチームで取り組む食育～」をテーマに、対面とオンラインのハイブリッド方式で行いました。保育施設の園長、保育士、栄養士、学生等、約130名の方々に参加いただきました。参加者からは、「調理師として励みになった」「他園の取組が分かり良かった」「保育とはを考える時間となった」とのお声をいただき、大好評で終えることができました。



入学式

令和7年4月7日(月)に令和7年度尚絅大学・尚絅大学短期大学部入学式を尚絅アリーナにて挙行了いたしました。真新しいスーツに身を包んだ大学生162名(編入生18名含む)、短期大学部生129名の合計291名の新入生と保護者の方々が参加されました。山縣学長は、式辞で「皆さんの尚絅での4年間、2年間で充実したものとなり、社会が求める人材として成長し、これまでの卒業生が作ってこられた尚絅の歴史を引き継がれますことを強く願っています」と期待の言葉を述べました。式典後は、各学部・学科に分かれて入科式を行い、新入生は新たなスタートを切りました。



「くまモン学研究会2025」が開催されました

令和7年2月9日(日)、尚絅大学九品寺キャンパス7201講義室において、「2025年3月にデビュー15周年を迎えるくまモン。改めてくまモンのこれまでのブランディングや持続可能な展開について一緒に考えましょう！」をテーマに、くまモン学研究会が開催されました。プレイスブランディングの研究に取り組む九州産業大学の山下永子教授の基調講演に続いての4人の研究者とのセッション、後半はくまモンの育ての親である東京大学の蒲島郁夫フェローによる特別講義が行われました。続いて、熊本県のくまモerland化構想とOMO5熊本by星野リゾートとコラボした授業の成果としての学生たちのプレゼンテーションがあり、たくさんの参加者と共に創り上げられた研究会となりました。



©2010熊本県くまモン

尚絅子育て研究センター

乳幼児保育研究会&保育Caféを開催しています！

令和7年度も、保育の質向上をめざし、現場の保育者の先生方との学びの場である「乳幼児保育研究会」を実施しています。園の先生方からの保育実践報告をもとに、子どもの豊かな育ち、明日の保育に繋げるために、議論を深め合っていきたいと思えます。また、研究会終了後は、「保育Café」を開催し、保育の悩みをざっくばらんに話し合う場を設けています。令和7年4月23日(水)に第1回乳幼児保育研究会を開催しました。保育アドバイザーの平田先生から、子どもの主体性を大切に保育について、今年度の保育をどう進めたら良いか、実践レポートの書き方について話がありました。保育者から一番遠くにいる子どもにまで届く保育、そして保育内容を選定して行けば、どの子も取りこぼさない保育になるはずだと話されました。第二報告は、尚絅こども園の入江先生で、昨年度担任のクラスの実践を報告いただきました。

こうした子育て研究センターの事業については、学園のホームページや子育て研究センター紀要『児やらい』において随時報告していきます。



尚絅食育研究センター

尚絅食育の日～お魚の日～を開催しました

6月19日は、「食育の日」です。本学では「食育の日」を周知することと魚食普及を目的に、学食にて郷土料理である「鯛めし・がね揚げ・あおさ汁」を特別メニューとして提供しました。この取組は、天草地区漁業士会のご支援を受け、今年で7回目の開催となります。今年は学食で50食提供しましたが、好評につき即完売となりました。さらに当日は、天草の漁業に関する展示を行いました。ご協力いただいた天草地区漁業士会・天草広域本部の皆様にご感謝申し上げます。



熊本マンガアニメフェスタ

令和7年5月5日(月)・6日(火)にJR熊本駅前で開催された「熊本マンガアニメフェスタ(通称:くまふ)」に、ジャンボくまモンといっしょにブースを出展しました。当日は、現代文化学部部の学生たちがブースで自作の同人誌やグッズを展示・販売したほか、本学の取り組みの広報に加えて、令和7年7月12日(土)・13日(日)開催予定の本学学園祭および「尚絅コミックイベント」のご案内も行いました。また、ブースの出展だけではなく、多くの現代文化学部の在学生が運営ボランティアやコスプレイヤー、カメラマンとしても参加しており、学生たちはさまざまな形でイベントを大いに楽しんでいました。本学のブースにお立ち寄りくださったみなさま、本当にありがとうございました！



尚絅大学「やってみよう！管理栄養士」を実施しました

令和6年12月15日(日)、生活科学部は県内の高校生を対象に「やってみよう！管理栄養士」を開催しました。このイベントは、体験を通して、管理栄養士の仕事ややりがいについて理解を深めていただくもので、令和6年度は、高校生28名の参加がありました。前半は、「スポーツ栄養学」と「アスリート向け補食をつくらう」の二つの体験講座を実施しました。本学教員からスポーツ栄養学と補食について講義を受けた後、スポーツ栄養サークルの大学生と一緒にスポーツ時の補食としてのおむすび(むね肉とわかめのおにぎり・あさりの鉄分おにぎり)をつくって試食しました。高校生からは、「あまり食べたことのないあさりを使ったおにぎりを作って食べたことが印象的だった」「実際に作ることができて楽しかった」などの感想がありました。また後半では、社会で活躍している本学OG2名から「保健所の管理栄養士」「プロアスリートを支える管理栄養士」について、具体的な業務内容や管理栄養士を目指したきっかけなどの講話がありました。「やりがいを感じられる職業だと思った」「在校生との交流ができて良かった」など、参加者にとって管理栄養士の仕事を理解する有意義な体験イベントになりました。管理栄養士の仕事に興味を持っているけれども、具体的な仕事の内容ややりがいについて知りたいという高校生に向けて、令和7年度も「やってみよう！管理栄養士」を実施する予定です。



尚絅大学 親子バレンタインクッキング教室～大豆ミートを使ったお菓子～

令和7年2月11日(火・祝)に生活科学部で親子バレンタインクッキング教室を開催しました。当日は、近隣の小学校から親子20組、計40名の参加があり、大学生と一緒に楽しくバレンタインのお菓子作りに挑戦しました。今回のメニューは、熊本県の食品企業が製造する大豆ミートを使った、おいしいチョコレート菓子「チョコ克蘭チ」と「チョコブラウニー」です。出来上がったお菓子は、自分や家族の方へのプレゼントとして、箱に詰めて持ち帰りました。参加者からは、「とても楽しかった。また参加したい」「お姉さんに丁寧に教えてもらいながら、お友達とお菓子作りができて、貴重な体験となりました」「大豆ミートを取り入れた料理を親子で作りたいと思いました。また参加したいです」など、たくさんの嬉しい感想をいただきました。生活科学部では、令和7年度も親子での楽しい料理教室を企画します。たくさんの参加をお待ちしています。



学生がつなぐ日韓の架け橋！こども教育学部の国際交流

こども教育学部では、グローバルな視野を育むため、韓国の大学との国際交流を積極的に進めています。令和6年9月には、1・2年生11名が鄭英美教授とともに釜山大学および仁済大学を訪問し、現地の学生とボードゲームやキャンパスツアー、附属幼稚園訪問などを通じて交流を深めました。さらに、11月には釜山大学幼児教育学科との正式なMOU(学術交流協定)を締結し、今後の安定的な学生交流と教職員の共同研究の基盤を築きました。一方、令和6年7月には仁済大学の学生5名と教員1名を、令和7年1月には釜山大学から学生11名と教員1名を受け入れ、本学学生とともに授業参観、文化体験、保育現場の見学を実施。異文化理解と国際的な感覚を育む貴重な学びの場となりました。





尚絅中学校 尚絅高等学校

高校卒業式

令和7年3月1日(土)、尚絅アリーナにおいて第77回卒業証書授与式を行いました。保護者の皆様と学校関係者に見守られ、厳かで温かい雰囲気の中で卒業式となりました。式後のホームルームでは、担任の先生から一人ひとりに卒業証書が手渡され、高校生活最後の時間をクラスメイトと分かち合いました。卒業生132名は名残を惜しみながら学舎を旅立っていきました。



中学卒業式

令和7年3月13日(木)、中学3年生の卒業証書授与式を行いました。校長先生からの卒業証書授与の後、生徒一人ひとりがお世話になった方々へのメッセージを涙ながらに述べ、担任の先生からのメッセージと続けました。高校でも本校での学びは続きますが、義務教育を終える大きな成長の節目となりました。中学3年間での成長を自信にし、高校でも精一杯がんばってくれることと思います。



中高入学式

令和7年4月9日(水)、尚絅アリーナにおいて令和7年度尚絅中学校・尚絅高等学校入学式を挙行了しました。穏やかな空の下、新しい制服に身を包んだ新入生が登校し、晴れやかな表情を見せてくれました。入学式では、校長先生の入学許可宣言、式辞の後、理事長お祝いのことばの後に、中学生、高校生の新入生代表者がそれぞれに宣誓を行いました。合唱部の美しい校歌披露により、在校生もお祝いに花を添えてくれました。式後に行われたホームルームでは、担任の自己紹介や学校生活についての説明に真剣に耳を傾けていました。



芸術鑑賞会

令和7年6月6日(金)、尚絅アリーナにおいて芸術鑑賞会を行いました。世界で活躍されるヴァイオリニスト・篠崎史紀さん、ピアニスト・尚絅大学短期大学部非常勤講師の吉田秀晃さんをお迎えし、アンコールを含め、全9曲の演奏をご披露いただきました。ヴァイオリンとピアノの美しい調べに生徒たちは聞き入っていました。演奏の合間には、生徒からの質問にお答えいただき、篠崎さんのヴァイオリンに対する姿勢や人生観を学ばせていただきました。



吹奏楽部 第2回定期演奏会

令和7年4月29日(火)、熊本市男女共同参画センターはあもいにて、「尚絅中学・高等学校吹奏楽部 第2回定期演奏会」を開催しました。高校3年生を中心に選曲や演出を考えた3部構成の演奏会でした。

第1部『クラシック・ステージ』では「想ひ麗し浄瑠璃姫の雫」等のコンクールでの楽曲を演奏しました。第2部『ポップス・ステージ』では「ふたりはプリキュア」、「ディープ・パープル・メドレー」等、誰もが聴いたことのある楽曲で会場を盛り上げました。第3部『メモリアル・ステージ』では「四季」をテーマに、寸劇を交えたステージをお送りしました。また、司会として高校3年生の福岡さん、松本さん、ステージ横断幕作成には書道部高校3年生の打出さんにも協力してもらいました。卒業生や新入生も出演し、楽しいステージになりました。



修学旅行2024 シンガポール(高1・高2・中3)3/2 ~ 3/6

中学生14名と高校1年生13名、高校2年生25名が3泊5日のシンガポール修学旅行に参加しました。現地は連日30℃を超える暑さでしたが、生徒たちは全行程を満喫することができました。

現地の学校交流では、公立女子校の「クレセントガールズ・スクール」を訪問し、英語でのプレゼンテーションや生徒間交流で学習の成果を発揮するとともに、先方の生徒や先生方の温かい歓迎とおもてなしに全員感動し、充実した時間を過ごすことができました。企業訪問では、子育てをしながら働く女性を国や企業が応援する制度、多民族、多宗教でも治安が良く教育水準が高いことや、シンガポールの住みやすさや観光地として選ばれる特徴など、多くの知識を得ることができました。生徒たちにとっては、将来について考える良い機会にもなったようでした。

他にもセントーサ島での班別自主研修・地元の大学生との交流や各観光地訪問でたくさんの思い出もできました。



修学旅行2024 東京(高1・高2)3/3 ~ 3/6

高校1年生と高校2年生が3泊4日で東京の修学旅行に参加しました。初日は、都内で班別自主研修を行いました。雪まじりの雨が降る時間もありましたが、自分たちで立てた計画のもと、充実した研修ができました。2日目は、国会議事堂の見学、舞台観劇とスカイツリー観覧を、一方はディズニーリゾートでの班別研修をしました。雨や雪、寒風吹き荒ぶ中、生徒たちは満面の笑みで楽しんでいました。最終日は、それぞれ上野と浅草での研修を経て帰路につきました。



熊本城マラソンボランティア

令和7年2月16日(日)「熊本城マラソン2025」において、高校1～3年生の合わせて約100名が給水ボランティアとして参加しました。

毎年参加している熊本城マラソンボランティアは、今年も平成大通り沿いにある「第1給水所」を本校担当として任せていただきました。生徒たちはフルマラソン出場の方々に応援の気持ちを込めて、給水を行いました。

学年末考査期間直前となったため、テスト勉強の時間を割いて参加した生徒たちも多くいましたが、みんな笑顔で無事に任務を遂行することができました。参加ランナーの中には本校の先生たちの姿もあり、大きな声援を送りました。選手の皆様にも喜んでいただき、生徒たちもやりがいを感じながら笑顔とエールをお届けすることができました。





尚絅大学附属こども園

修了証書授与式(卒園式)

令和7年3月15日(土)に令和6年度(第56回)修了証書授与式を行いました。令和6年度は、ほし組、つき組、にじ組の年長組合わせて70名の園児が本園を巣立ちました。

担任から順番に名前を呼ばれた園児たちは、一人ずつ演壇にあって、園長から修了証書を授与されました。皆、神妙な面持ちでお礼の言葉とともに修了証書を受け取っていました。

その後は、園長式辞、杉の子会会長祝辞、在園児のお祝いの歌、修了児の園生活の思い出を綴ったお別れの歌と続き、式は滞りなく終了しました。

卒園する70名は、本園での思い出を胸に、4月からの小学校での新しい生活に胸躍らせながら本園を後にしました。



入園式

令和7年4月12日(土)に令和7年度の入園式を行いました。今回の出席者は、新入園児が71名、6年度途中入園児が5名、合計76名の園児とその保護者でした。

最初に園長から、入園する園児と保護者に向けて式辞を述べました。入園する園児には、園長が赤ちゃんやアンパンマン等の人形を使い声色を変えながら話をする場面もあり、こども園らしい入園式となりました。

その後、在園児の代表者によるお祝いのことばや歌、教員数名によるハンドベル演奏で新入園児を歓迎しました。最後に、各クラスを担当する保育教諭の紹介があって、終了しました。

これから、園での日々の生活や遊び、行事等を通して、園児一人ひとりが成長していく姿を見せてくれることが楽しみです。



芋苗遠足(年長組)

令和7年5月13日(火)に芋苗を植えにカントリーパークに出かけました。この日はとても良いお天気に恵まれ、遠足日和でした。苗の植え方をカントリーパークの方に教わりながら、丁寧に苗を植えました。中には「大きくなーれ」と呪文のように唱えながら植えている園児もいました。係の方が、「皆さんの苗を大事に育てます」と言われ、園児たちも「よろしくお願いします」と挨拶をしていました。

そのあとは待ちに待った昼食。弁当の中味はおにぎり弁当です。玉子焼きやチキン等の入ったスペシャルおにぎりを美味しそうに食べていました。沢山のバラの花が満開で、花の色や形を見たり、ばらの匂いをかいだりしていました。中には「シャンプーのにおいみたい!」や「お化粧の匂いがする!」と鋭い感性と表現に「なるほど!」と感心させられました。秋の収穫が楽しみです。



「尚絅学園みらい募金」～奨学資金および教育研究振興の充実のための募金～の報告とお願い

寄附者芳名録				
令和6年11月1日～令和7年4月30日現在				
ご寄附をいただきました方々のご協力に感謝し、ご芳名を掲載させていただきます。				
寄附金内訳				
個人・法人・企業等	2件 / ￥2,300,000	現旧役員・教職員	2件 / ￥500,000	合計 4件 / ￥2,800,000
卒業生・現旧役員・教職員・個人・法人・企業 (順不同)				
光多制服株式会社様	尚絅学園後援会様	山縣 ゆり子様	坂田 敦子様	

「尚絅学園古本募金」

「尚絅学園古本募金」は、取引集荷・査定換金・募金送金の運営を「古本基金きしゃぼん」(運営:嵯峨野株式会社)に委託して実施しています。皆様からのご支援をお待ちしております。

尚絅学園古本募金状況について			
令和6年11月1日～令和7年4月30日現在			
ご寄附をいただきました方々のご協力に感謝し、寄附金状況をご報告させていただきます。			
寄附金内訳			
個人・法人・企業等3件 / ￥569	現旧役員・教職員 1件 / ￥270	合計 4件 / ￥839	

〈WEBで申込む〉 **尚絅学園 古本募金** **0120-29-7000**
Kishapon.com/shokei-gakuen/ (受付)24時間・365日 オペレーターに団体ID **172** とお伝えください。(受付)9時～18時・365日
【お申込みと集荷について】 電話またはWEBからお申し込みいただくだけで、ご希望の時間にご自宅まで宅配業者が受け取りに伺います。
5冊(5点)以上であれば送料無料です。



学校法人尚絅学園 令和6年度決算の概要

1. 決算の概要

学校法人尚絅学園の令和6年度決算は、令和7年5月26日開催の理事会において承認・議決され、令和7年6月23日開催の定時評議員会に報告されました。また、監事及び監査法人の承認を得ております。以下、その内容についてご説明いたします。

(1)資金収支計算書 資金収支計算書は、当該年度の教育研究活動に対応するすべての資金の収入及び支出の内容を明らかにして、支払資金の収入及び支出の顚末を明らかにしています。

資金収支計算書要約 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで (単位:百万円)

資金収入の部	令和6年度	前年度	増 減	資金支出の部	令和6年度	前年度	増 減
学生生徒等納付金収入	1,273	1,308	△ 35	人件費支出	1,576	1,592	△ 16
手数料収入	18	18	0	教育研究経費支出	453	437	16
寄付金収入	7	9	△ 2	管理経費支出	160	122	38
補助金収入	775	776	△ 1	借入金等利息支出	8	8	0
資産運用収入	0	0	0	借入金等返済支出	56	33	23
資産売却収入	9	0	9	施設関係支出	10	38	△ 28
事業収入	1	2	△ 1	設備関係支出	28	49	△ 21
雑収入	124	101	23	資産運用支出	6	8	△ 2
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	60	64	△ 4
前受金収入	327	389	△ 62	資金支出調整勘定	△ 58	△ 51	△ 7
その他の収入	189	69	120	支出の部小計	2,299	2,300	△ 1
資金収入調整勘定	△ 552	△ 534	△ 18				
前年度繰越支払資金	581	743	△ 162	次年度繰越支払資金	453	581	△ 128
収入の部合計	2,753	2,881	△ 128	支出の部合計	2,753	2,881	△ 128

資金収支計算書の収入の部において、学生生徒等納付金収入は1,273百万円となり、前年度比35百万円減少しました。また、補助金収入として775百万円を計上し、前年度比1百万円減少しました。

学生生徒等納付金収入及び補助金収入における減少要因は、学生・生徒・園児の在籍数が前年度より20名減少、資産売却収入の増加要因は、武蔵ヶ丘キャンパス敷地内にある電力鉄塔用地の売却による増加、前受金の減少要因は、入学予定者数が前年度より35名減少によるものです。また、その他の収入の増加要因は、前期末未収入金(退職金交付金と施設型給付費と預り金(土地売却代金手付金))の増加によるものです。

支出の部では、人件費支出は1,576百万円であり、前年度比16百万円減少しました。教育研究経費支出は453百万円で前年度比16百万円増加、管理経費支出は160百万円で前年度比38百万円増加しました。

人件費支出における減少要因は、退職した教職員と後任の教職員の給与差によるものです。また、教育研究経費の増加要因は、光熱水費(電気代単価の値上がり)と奨学費(高等教育修学支援金)、管理経費の増加要因は、報酬委託手数料(武蔵ヶ丘キャンパス土地売却に係る現況測量)と広報費(活動拡大)と補助活動費(寮運営会社との契約金額の値上げ)によるものです。

以上の結果により、次年度繰越金は453百万円となり前年度比128百万円減少いたしました。

(2)事業活動収支計算書 事業活動収支計算書は、当該年度の事業活動収入と事業活動支出の内容、収支状況を明らかにして、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示しています。

事業活動収支計算書要約 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで (単位:百万円)

事業活動収入の部	令和6年度	前年度	増 減	事業活動支出の部	令和6年度	前年度	増 減
(教育活動収入計)	(2,198)	(2,213)	(△ 15)	(教育活動支出計)	(2,652)	(2,620)	(32)
学生生徒等納付金	1,273	1,308	△ 35	人件費	1,582	1,602	△ 20
手数料	18	18	0	教育研究経費	869	855	14
寄附金	7	9	△ 2	[内奨学費]	(182)	(173)	(9)
経常費等補助金	775	775	0	[内減価償却額]	(416)	(418)	(△ 2)
付随事業収入	1	2	△ 1	管理経費	201	163	38
雑収入	124	101	23	[内減価償却額]	(28)	(28)	(△ 0)
(教育活動外収入計)	(0)	(1)	(△ 1)	(教育活動外支出計)	(8)	(8)	(0)
受取利息・配当金	0	1	△ 1	借入金等利息	8	8	0
(特別収入計)	(9)	(4)	(5)	(特別支出計)	(0)	(0)	(0)
現物寄付等	9	4	5	資産処分差額	0	0	0
事業活動収入計	2,208	2,218	△ 10	事業活動支出計	2,661	2,629	32
				基本金組入前当年度収支差額	△ 452	△ 410	△ 42
				基本金組入額	△ 5	△ 38	33
				当年度収支差額	△ 458	△ 448	△ 10
				基本金取崩額	0	0	0

事業活動収支計算書の収入の部、支出の部については、資金収支計算書の収入の部、支出の部と同様の項目が多く含まれています。令和6年度の事業活動収支計算書における特徴的なものは、学生生徒等納付金の減少及び雑収入の増加を主要因とした事業活動収入が前年度比10百万円減少したことに対し、人件費は減少及び教育研究経費と管理経費の増加を主要因とした事業活動支出が前年比32百万円の増加となりました。

その結果、教育活動収支差額は△454百万円となり、前年度比47百万円悪化しました。同様に基本金組入前当年度収支差額は△452百万円となり、前年度比△42百万円悪化しました。



令和6年度決算の概要と事業報告

(3) 貸借対照表 貸借対照表は、一定時点(決算日)における資産、負債、基本金の内容と在高を明示して、学校法人の財政状況を明らかにしています。

貸借対照表 令和7年3月31日

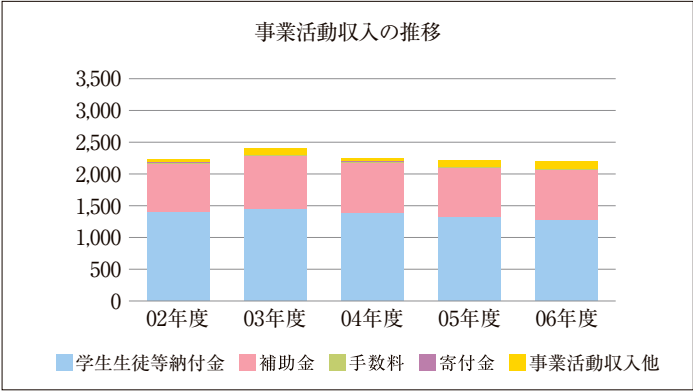
資産の部 (単位:百万円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,009	9,424	△ 415
有形固定資産	8,171	8,589	△ 418
土地	1,021	1,023	△ 2
建物	5,515	5,857	△ 342
構築物	333	365	△ 32
教育研究用機器備品	331	371	△ 40
管理用機器備品	35	42	△ 7
図書	936	929	7
車両	0	2	△ 2
建設仮勘定	0	0	0
その他の固定資産他	839	835	4
有価証券	20	20	0
退職給与引当特定資産	300	300	0
減価償却引当特定資産	100	100	0
施設設備引当特定資産	226	226	0
第3号基本金引当特定資産	177	177	0
教育活動寄附金引当特定資産	12	7	5
流動資産	649	739	△ 90
現金預金	453	581	△ 128
未収入金他	163	124	39
有価証券	0	0	0
仮払金他	33	33	0
資産の部合計	9,658	10,163	△ 505

令和6年度末における固定資産(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動資産(現金預金・未収入金他)を合わせた資産の部合計は9,658百万円、建物・教育研究用機器備品の償却等や現金預金の減少により、前年度末と比べて505百万円減少しました。

一方、長期未払金等の固定負債と前受金及び未払金等の流動負債の合計額は1,851百万円となり、前年度末と比べて53百万円減少しました。これは長期借入金の減少が主な要因です。

事業活動収支の推移

(単位:百万円)					
収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金	1,389	1,443	1,380	1,308	1,273
経常費等補助金	758	826	786	775	775
手数料	22	20	20	18	18
寄付金	3	2	2	9	7
付随事業収入＋雑収入	55	106	62	103	125
事業活動収入計	2,236	2,413	2,260	2,218	2,208
基本金組入額合計	△ 532	0	△ 554	△ 38	△ 5
支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費	1,473	1,560	1,532	1,602	1,582
教育研究経費	818	826	820	855	869
管理経費	186	208	299	163	201
教育活動外支出	2	4	6	8	8
特別支出	0	27	5	0	0
事業活動支出計	2,478	2,625	2,662	2,629	2,661
基本金取崩額	0	147	0	0	0



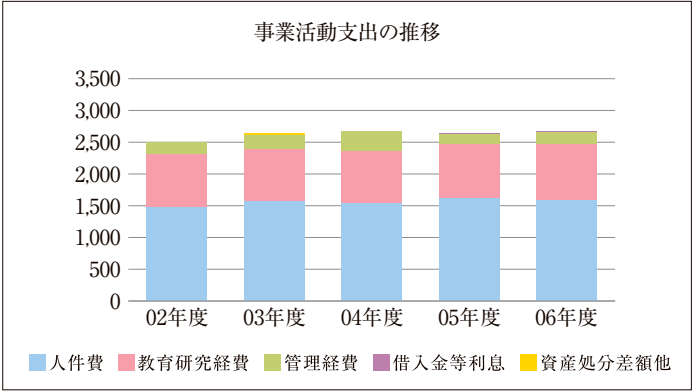
負債の部 (単位:百万円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,329	1,375	△ 46
長期借入金	1,022	1,078	△ 56
退職給与引当金	302	297	5
長期未払金	5	0	5
流動負債	522	529	△ 7
短期借入金	56	56	0
未払金	35	44	△ 9
前受金	327	389	△ 62
預り金	105	40	65
災害損失引当金	0	0	0
負債の部合計	1,851	1,904	△ 53
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	15,068	15,062	6
第3号基本金	177	177	0
第4号基本金	181	181	0
基本金の部合計	15,426	15,420	6
翌年度繰越収支差額	△ 7,619	△ 7,161	△ 458
繰越収支差額の部合計	△ 7,619	△ 7,161	△ 458
純資産の部合計	7,807	8,259	△ 452
負債及び純資産の部合計			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債及び純資産の部合計	9,658	10,163	△ 505

令和6年度末における固定負債(長期借入金・退職給与引当金・長期未払金)と流動負債(短期借入金・未払金・前受金・預り金)を合わせた負債の部合計は9,658百万円、長期借入金の減少が主な要因です。

一方、長期未払金等の固定負債と前受金及び未払金等の流動負債の合計額は1,851百万円となり、前年度末と比べて53百万円減少しました。これは長期借入金の減少が主な要因です。

事業活動収支の推移

(単位:百万円)					
収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金	1,389	1,443	1,380	1,308	1,273
経常費等補助金	758	826	786	775	775
手数料	22	20	20	18	18
寄付金	3	2	2	9	7
付随事業収入＋雑収入	55	106	62	103	125
事業活動収入計	2,236	2,413	2,260	2,218	2,208
基本金組入額合計	△ 532	0	△ 554	△ 38	△ 5
支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費	1,473	1,560	1,532	1,602	1,582
教育研究経費	818	826	820	855	869
管理経費	186	208	299	163	201
教育活動外支出	2	4	6	8	8
特別支出	0	27	5	0	0
事業活動支出計	2,478	2,625	2,662	2,629	2,661
基本金取崩額	0	147	0	0	0



2. 事業の概要

- 学校法人 尚綱学園**
- (1) **ガバナンス**
- ①私立学校法改正に伴う寄附行為の変更に対応し、令和7年4月1日施行の寄附行為改正を行った。
 - ②常勤理事会を原則隔週で開催し、重要事項の協議検討、意思決定等を適切に行うとともに、業務遂行状況の把握を行った。
 - ③「令和6年度危機管理プログラム」に基づき、こども園は毎月1回避難訓練を実施し、大学・短大・中高については、令和6年10月に両キャンパスとも避難訓練(実動訓練)を実施した。
- (2) **財政**
- ①設置校別・部門別に収支状況を把握するとともに、損益分岐点(学生・生徒・園児数)を分析し、全教職員に情報共有し、今後の募集活動の材料とした。
 - ②厳格な予算執行及び予算統制のため、業績において適正な予算執行であるかを検証し、また伝票回覧時に予算執行状況の正確な把握に努めた。
- (3) **人事**
- ①効率的な事務組織の再編を検討し、令和7年4月に尚綱学園事務組織規程の改正を行い、組織改革を行った。
 - ②尚綱学園事務職員の初任給、昇格、昇給等に関する規程を制定し、令和6年4月から施行した。
 - ③FD活動は「授業改善アンケート」「FD研修会」など年間7回実施し、SD活動は、「決算書について」「一次救命処置」など、研修会を年間10回実施した。
- (4) **施設設備**
- ①令和6年8月に各キャンパスの空調機器の一斉調査を行い、故障している空調機器について修繕を行った。
 - ②武蔵ヶ丘キャンパス遊休土地の売却について、入札を経て落札業者と不動産売買契約を締結した。
- (5) **同窓会・後援会・地域との連携**
- ①設置校の担当者が各サークル、部活、同好会からの課外活動支援金の申請を受け付け、申請のあった団体へ交付した。
 - ②志願者数の増加に加え、同窓会組織との連携強化につながる新たな奨学金制度(二世帯・三世帯入学奨学金)を制定し、該当世代へ案内を送付した。
- 尚綱大学・尚綱大学短期大学部**
- (1) **教育と学修の充実**
- ①建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進のために、大学・短大の全学科において自校教育の授業を実施し、受講生に理解度アンケート調査を実施した(理解度98%)。その調査結果と学修効果を学科会議及び教務連絡協議会等で検証を行い、全学で共有した。
 - ②教育方法及び教育体制の継続的な点検・改善を図るために、学科会議及び教務連絡協議会等で3つのポリシーの点検及び必要に応じた改善を行った。また、教育課程及び学修成果の点検のために、授業改善アンケート結果について学科会議及び教務連絡協議会等で検証を行った。
 - ③学修成果の獲得及び教育の質保証を高めるために、自己点検・評価活動を継続的に実施し、課題の抽出・検証を行った。また、学修成果の可視化を推進し、学科会議や教務連絡協議会等でその検証を行った。
 - ④社会の要請や変容に適応した教育の導入や推進を図るために、教育改革に取り組む教員への学長裁量経費の配分や「数理・データサイエンス・AI教育入門」への取り組みの強化、アクティブ・ラーニングの導入率向上やDXを取り入れた教育体制の整備等を実施した。
 - ⑤大学と短期大学部との連携による教育の推進については、大学と短期大学部との合同開講科目を開講し、更に新規科目等の開講を検討している。大学短大併設の強みの発揮できる編入学制度をより活用できるように短大の授業科目を整備した。
- (2) **学生確保**
- ①入学者の増加策として令和7年度入試においては、総合型選抜(第1回)にエントリー方式を導入した。さらに、編入学選抜における受験者の増加を図るため、こども教育学部及び生活科学部の編入学試験の時期や回数の見直しを行った。
 - ②オープンキャンパスの実施内容においては、オープンキャンパス参加者を受験希望者へつなげるため、本学の学びの説明や、個別の受験相談に応じるなど、フォローアップを重視した内容とした。
 - ③広報手段としてラインやインスタグラムなど、SNSを活用した直接的訴求できる情報発信手段を活用した広報活動も実施した。
- (3) **学修環境の整備**
- ①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理を図るため、九品寺キャンパス及び武蔵ヶ丘キャンパスの教室、図書館、実験室等において機器の設置や空調機交換などの改修・修繕を実施し適切な教育環境の維持を行った。
 - ②夏季に併設校である中学・高等学校の空調機が故障したため、大学の施設を提供した。これをきっかけに今後の内部進学率向上にもつながる機会となった。
 - ③図書館の整備改善の一環として、研究紀要に掲載された論文等の電子化と公開を行うとともに、電子書籍サービス(69タイトルの追加)と新聞記事データベース(「熊本日日新聞記事データベース」)を新たに公開した。
- (4) **学生支援の充実**
- ①学生生活における学生満足度については、「学生生活に関する実態調査」「疲労蓄積度調査」などの各種アンケート調査の結果を学部学科に還元し、その調査・分析結果を全学で行う委員会等で共有した。
 - ②特別な配慮を要する学生については、学生からの支援申請に基づき学部学科と協議を行い、障害の状況等に応じた支援を行った。家計急変等に伴う経済的な問題については奨学金の申請や納期の相談等、個別事案ごとに対応した。
 - ③キャリア支援・就職支援については、「夏季キャリアガイダンス」では、就職年次(大学3年生・短大1年生)向けの従来プログラムに加え、就職年次以外(大学1・2年生)向けの講座を新設し、早期からの就職意識の醸成を図った。「春季キャリアガイダンス」では、就職年次の保護者を対象とした説明会を新設し、保護者の意向も踏まえた就職指導を実施した。また、職種別の「就職懇談会」を開催し、事業所からは有意な取り組みとして評価を得た。
 - ④インターシップについては、大学コンソーシアム熊本主催のインターンシップに参加し、夏季には10先の事業所に28名(大学18名、短大10名)、春季には4先の事業所に8名(大学4名、短大4名)が参加した。
 - ⑤令和6年度卒業生の就職率は、大学97.0%、短期大学部99.4%であった。
- (5) **研究力の強化**
- ①研究倫理遵守活動の推進については、研究倫理に関する諸規定の見直しや研究倫理教育の実施、不正防止計画の策定等を計画的に実施しており、研究倫理研修の受講についても対象者全員が研修を受講した。
 - ②研究環境の充実については、研究設備・機器等の導入、更新及び整備として、凍結乾燥機、ブリクサー、フードブレンダーなどの機器を導入した。
 - ③研究成果発表の推進については、本年度の研究論文の公表は84件で目標を達成した。食育研究センターと子育て研究センターは共同で県内6園の協力を得て、「かみかみプログラム」を実施し、大学・保育所・家庭が連携して噛む力・飲み込む力の向上を目指した。
- (6) **社会連携の拡充**
- ①地域連携事業については、地域連携推進センターでは、継続中・新規の地域連携事業を33件推進した。令和7年2月に、「くまモン学研究会」を開催し地域とのネットワークの強化を図った。
 - ②食育研究センターでは、天草地区漁業士会と連携し、「尚綱食育の日」を開催し、交流活動を通じて魚食普及に取り組んだ。
 - ③子育て研究センターでは、保育者の質向上と保育者の早期離職防止を目的に相談支援・交流会「保育Café」を毎月開催した。また、地域の子育て支援として「子育てCafé」を毎月開催した。
- (7) **国際交流の推進**
- ①新たな取組として、こども教育学部こども教育学科は釜山大学校師範大学幼児教育学科と交流協定を締結し、令和7年1月釜山大学校から学生11名と教員1名を受入、交流を深めた。さらに、両学科の教員間の共同研究も進行している。
 - ②ハワイ大学マノア校への短期語学留学が新設された2名の学生が参加した。
- (8) **内部質保証**
- ①内部質保証については教育水準の向上、学修成果の可視化とアセスメント体制の整備、調査データの分析に基づくPDCAサイクルの徹底、学生ニーズを踏まえた課題解決への取り組み、内部質保証システム体系図に基づいた自己点検・評価及び事業実績の検証等を行い、改善策の実施に取り組んだ結果、令和6年度大学機関別認証評価にて一定の評価を得た。
 - ②調査データの学内共有を図るため、大学IR支援サイトを構築し、教職員間での情報の共有を可能とした。

- 尚綱中学校・高等学校**
- (1) **教育の質向上**
- ①全校生徒の英語力向上の数値目標達成は特別進学コースのみだが、英語ディベートでは県並びに九州大会で優勝して全国大会に出場し、全国大会ではチームの一人が最優秀ベストアタッカー賞を受賞した。
 - ②国際交流の一環として7月に台湾からの訪問団58名を受け入れ、中学生と吹奏楽部との交流と文化祭への参加を実施した。姉妹校の韓国鶴城女子中学校とは、1月にオンラインによる交流を行った。
 - ③本校独自の留学規定を4月に作成し、中期1名(ニュージーランドに半年)、長期1名(イタリアに10ヶ月)が留学した。また、フランスより1年間、ベルギーより3ヶ月の留学を受け入れた。
- (2) **品性があり社会に貢献し得る生徒の育成**
- ①プレゼンテーションやディスカッション等の活動を実施し、全国大会のディベート甲子園、英語ディベートに出場した。また、特別進学コースがエナジード・サミットの全国大会に出場し、表彰4つの内の一つ「気づき賞」を受賞した。
 - ②総合進学コースからの尚綱大学・尚綱大学短期大学部への進学率は目標の40%を下回り37%であった。また、特別進学コース、中高一貫コースにおける国公立大学及び難関私立大学への合格者数は目標の15名を下回り11名となり、達成率は73%であった。
 - ③学校評価に関わる生徒・保護者アンケートの「進路指導が適切に行われている」の肯定評価は生徒85%、保護者77%であり、目標値の80%以上は達成できなかった。
- (3) **生徒支援の充実**
- ①高校では、本年度進級に伴う奨学生採用において4年振りに2名の生徒が奨学生SSIに昇格した。
 - ②全教職員が支援を必要とする生徒への過不足のない指導・支援を実践するため、熊本県立教育センターから講師を招いて特別支援教育に関する研修を実施した。
 - ③在校生と友友会及び同窓会が連携した現状報告会は実施できなかったが、本年度から文化祭1日目に実施するクラス及び委員会・部活動の発表には育友会と同窓会にも案内し、観覧できるようにした。
- (4) **地域貢献の推進**
- ①本年度はペットボトルキャップ回収、マチノガッコウ2024、熊本城マラソン、フードバンク熊本のボランティア活動に加え、新たに認知症サポーター養成、きくなんフェスタ、アイシティECOプロジェクトのボランティア活動に生徒たちが主体的に参加した。
 - ②地域自治会との連携はできなかったが、日本財団が推進する海洋ごみ対策事業の一つであるスボGOMI甲子園2024熊本大会に部活動生が初めて参加した。
 - ③地元商店街の活性化や熊本の水質保全を目指す探究プログラムに参加した。また、中高一貫コース高2が東京のNPO「せいま」と連携して、マラウイの小学校の給食支援のためのコーヒー販売を下通繁栄会の協力を得て実施した。
- (5) **個性豊かな生徒の確保**
- ①在籍生徒の実態から、訪問する学校の地域見直しと管理職と職員が訪問する学校の区別化を行うとともに、合志市、菊陽町、大津町、御船町など人口増加エリアにある学習塾への管理職による広報活動を行ったが、目標数であった高校220名、中学30名には及ばなかった。
 - ②生徒に関する情報共有研修は実施できたが、困り感が見受けられる生徒に対する具体的な対応や支援方法についての保護者との連携が不十分であり、高校の転退学者が18名となり、目標値の達成には至らなかった。
 - ③校則については柔軟な対応に変更してきているが、まだ生徒と教職員に温度差が見受けられる。制服については、次年度から夏服着用期間のオプションとしてのボロシャツと時代の変化と機能性の面から、夏用・冬用のスラックスを導入することとなった。
- 尚綱大学附属こども園**
- (1) **子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実**
- ①園の環境を活用し園児の発達や興味、季節等を配慮して教育・保育を計画的かつ創造的に実践することができた。特に、本園の自然環境を生かした教育保育活動と遊びの中に組み込まれている「食に関する活動」は、試食体験やバザーでの収穫野菜の保護者への販売等、保護者から高い評価を得た。
 - ②DX化の推進では、ICT支援システム「コドモン」導入2年目となり、園児の出欠管理やバス運行状況、お知らせ、写真による怪我の状況報告などの利用を通して、保護者とのコミュニケーションが以前より円滑になった。
 - ③年長児が見通しをもって入学できるように、ひらがな遊びや武蔵ヶ丘北小学校1年生と年長児の交流を実施した。
- (2) **子育て支援の充実**
- ①在園児保護者への支援は、「子育て相談会」「お誕生会」「親と子のつどい」などが好評だった。特に昨年度までの「おしゃべり広場」を発展させた「おしゃべりカフェ」は好評だった。
 - ②子育て支援ルーム「どんぐり」の活動では、制作やリトミック、知育ヨガ、講話など様々な活動を準備し、参加者からはとても好評だった。
- (3) **次世代保育者の養成**
- ①これまでの短期大学部だけでなく大学(子ども教育学部)との実習連絡会などを通して実習生の情報共有や「実習のしおり」を通して実習の指導内容の共通理解に努め、実習生にとって充実した教育実習につながったと考える。
 - ②「運動能力測定」を大学と連携して行ったり、幼児教育学科の授業の一環として絵本の読み聞かせやストレッチ体操などの活動を行ったりして、学生の教育・保育力向上に寄与することができた。
 - ③高校生、幼児教育学科、大学生の教育実習、自主学習だけでなく、中学生の保育体験など積極的に受け入れ、附属園としての役割を果たすことができたと考ええる。
- (4) **自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保**
- ①令和6年度の入園希望者の状況では前年度の希望者数とはほぼ変わらず、収支の均衡はとることができた。令和6年度スタート時は、258名だったが、途中入園者が多く、最終的には284名に達した。令和7年度のスタート時は0歳児が少ないものの途中入園の希望者も有り、ほぼ今年度並みの見込みである。
 - ②昨年度、保護者に「園児募集に関するアンケート」をとり、その結果をもとに職員全員で方策を協議し、今年度以降の対策を立て取り組んだ。
 - ③尚綱学園HP「お知らせ欄」等で、本園の魅力や園児達の姿の情報提供を積極的に行った。



令和7年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I. はじめに

尚絅学園は、令和5年度から10年間の「第二期中長期計画」を策定し、学園の現状と課題、学園を取り巻く環境の変化や今後の方向性を踏まえた本学園の目指すべき姿（ビジョン）を掲げ、ビジョン達成のために新たなスタートを切りました。「第二期中長期計画」では、設置校の存続を前提に、学生・生徒の確保を最優先の課題として計画を策定しましたが、2年間の計画期間を終え、想定以上の社会環境の急激な変化により、大学・短大の学生数減少に歯止めがかからない状況となっています。

この現状を踏まえ、令和7年2月に「尚絅大学短期大学部総合生活学科の令和8年度以降の募集停止」及び「尚絅大学現代文化学部の入学生定員削減と教育内容の抜本的な見直し」を決定しました。

令和7年度においては、従来の中長期計画に則り事業運営を行うことに加え、上述の大きな改革にしっかりと対応することが必要となっています。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生・生徒等が充実した学校生活を過ごすためには、経営力の強化による安定的かつ強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の整備が必要不可欠で、その方向性を明確にする為、令和7年度中に「第二期中長期計画」を改定する必要があります。

○ガバナンス

経営の規律と誠実性を維持しつつ、「建学の精神」「教育理念」に則った教育を実現するための体制整備に努め、管理部門と教学部門の円滑な意思疎通と連携を図るとともに、相互チェックを適切に機能させます。また、人権・安全へ配慮した危機管理体制及びSDGsへの取り組みを強化します。

○財政

中長期計画に基づく適切な財務運営を確立し、安定した財務基盤のもと収支バランスの均衡に努めます。

○人事

各設置校の使命・目的に則し、財政状況を踏まえた適正な人員配置と、公正・公平で納得感のある人事評価の確立と適正な処遇の実現に努めます。また、適切な人事管理・労務管理体制を確立し、教職員の資質・能力の向上と職能開発を実施します。

○施設設備

外部環境の変化に対応した教育・研究環境の整備と適切な運営・管理を実現します。

○同窓会・後援会・地域との連携

同窓会、後援会および地域との連携強化に努め、各設置校の発展に寄与する活動を支援します。

2. 尚絅大学・尚絅大学短期大学部

本学における喫緊かつ最大の課題は学生確保です。18歳人口の減少や学生ニーズの多様化等により全国的に共学・4大志向が見られる中、令和4年度以降、入学定員充足率が下がり、極めて深刻な事態となったために、昨年度の令和7年度学生募集は、これまで以上に広報に力を入れ、さらにオープンキャンパスの内容充実や入学奨学金制度の刷新を図るなどに尽力しましたが、生活科学部以外の学部学科は令和7年度入学予定者がさらに減少する見込みです。このような中で、長年にわたって定員未充足が続いていた総合生活学科の令和8年度以降の学生募集停止、同様に定員未充足が続いている現代文化学部の入学定員の削減を受け、今後その対応と学生募集の改善を図ります。本年度は次年度の学生募集の活動によって、これらの事態に打ち勝つことが必要です。全学部・学科で教育内容の魅力を高めるとともにこれまでの学生募集活動の分析・改善を図るとともに、高校生のみに限らず、小・中学生までを含めた長期的な観点を踏まえ、入学志願者の増加に向けた取組を実施し、学生数の確保を図ります。

2023年度に第二期中長期計画（2023年4月～2033年3月）がスタートしました。第一期中長期計画では、教育内容の改善としてカリキュラム編成の高度化や学生ニーズへの適切な対応、取得可能な免許・資格の見直し、教育方法の改善を行いました。特に、本学の強みである「食」や「子育て」分野に加え、観光文化における地域連携や貢献については計画的に取り組んでいます。また、今年度から日本高等教育評価機構の新たな第4期評価システムに基づいて作成した令和7年度（評価対象：令和6年度）自己点検評価書に示した課題や課題に対する改善状況と今後の取組み予定の事項を実施し、内部質保証委員会を中心に、全学部・学科、並びに大学全体の教育の質を保证するためのPDCAサイクルを実践します。

3. 尚絅中学・高等学校

令和6年度は、学校教育活動もほぼ通常の形に戻り、生徒たちは「建学の精神」と「教育理念」の下、志を高く掲げ、ひたむきな努力と挑戦を続けることで、様々な分野で結果を残すことができました。入学者数についても、中学生21人、高校生203人と、4年振りに20人・200人を超えました。この増加の背景には、学校ホームページの充実、学校案内パンフレットの改善及び近隣の小学校や県内の中学校及び学習塾の訪問回数を増やしたことが考えられます。

第二期中長期計画の3年目にあたる令和7年度は、各コースにおける学びの更なる魅力化と発展を図るため、大学等との連携による教育力の向上に取り組めます。また、教職員の指導力向上を図るため、外部講師等を用いた研修や外部研修制度の積極的活用を行います。志願者数・入学者数増加のための広報戦略については、全職員と管理職のみで実施する学校訪問の差別化を図ります。なお、令和7年度のアクションプランに対する重点施策及び具体策は以下のとおりです。

(1)「教育の質向上」

デジタル採点支援システムを導入し、生徒の学習状況の可視化、テスト後の即時フィードバックによる学習効果の向上、蓄積されたデータによる指導方法の改善を行い、教育の質向上を実現します。

(2)「品性があり社会に貢献し得る生徒の育成」

予測困難な時代に生徒たちが主体的に生き抜く力を持てるよう、一人の人間として、また女性としての将来について自ら考えていくことを軸にした指針を作成します。

(3)「生徒支援の充実」

職員間の情報共有と組織的な生徒支援を行うとともに、スクールカウンセラーと連携した教育相談による生徒・保護者への支援の充実を図ります。

(4)「地域貢献の推進」

地域機関との連携を強化し、ボランティア活動や地域行事に参加する生徒を増やします。また、地域の自治会等と連携した環境美化に取り組みます。

(5)「個性豊かな生徒の獲得」

尚絅学園としての本校の魅力を大学と連携して見出し、その魅力を小・中学生や保護者に学校ホームページやSNS、その他の広告媒体を介して周知します。

4. 尚絅大学附属こども園

附属こども園では、「認定こども園教育・保育要領」等3法令の改訂等の趣旨を受け、教育・保育の目標達成をめざし「尚綱らしさ」を生かした改善・充実に努めるとともに、在園児保護者と地域保護者の支援に努めるという2つの目的の達成による社会貢献に努めています。

まず、教育・保育です。『全体的な計画（教育課程）』をもとに、「子どもの発育にふさわしい自然の風情をそのままに生かし、環境の構成（教育的な意図）を創造し、子どもの健やかな成長をめざす」ことを目標に、「尚綱らしさ」を「自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児」として、全教職員が質の高い、温かい愛情に満ちた教育・保育を推進します。今後は、協働してクリエイティブな実践を展開していくこと、また小学校への円滑な連携を図ることが課題です。広報誌やHP欄の充実、地域社会や自治体・市町教委、小・中学校、諸機関との連携、学校評価を生かした教育・保育の改善にも取り組みます。

次に、保護者支援です。日頃の教育・保育の充実やPTA（杉の子会）との協力と共に、在園児保護者にも地域保護者にとっても安心できる子育て支援を「子育て相談会」や「どんぐりルーム」等で推進しています。ここ数年、特別な支援を必要とする園児や援助・配慮を要する保護者の増加に伴い、園児の安全性の確保や発達特性に応じた教育・保育の対応力の向上、療育施設との連携、協力、保護者の相談事業等をはじめ、保育者数の確保や研修が急務となっていますが、保育者の常時確保が難しく決して安全な教育・保育が保障されているとは言えない状況も見られます。また、園児の命と安全を守るために、子育てに不安や困り感をおもひの保護者、DVや児童虐待事案等に対して、行政機関・小学校・療育施設・児童相談所・警察等との連携・協力による支援を実施しています。喫緊の課題は、収支均衡のための園児の確保です。周辺市町は熊本市のベッドタウンとして人口増加率が高く海外からの進出企業の影響もあり数年は少子化の影響は少ないと見られていましたが、昨年度の募集では3歳1号園児が定員まで達していない状況ではあったものの、収支の均衡はとれましたが、今後も実現できるか不透明な状況です。これまで、1号園児数を確保するために従来の在園児に加えて卒園児の弟妹枠を設けたり、満3歳児を12名から18名に増やしたり、その他にも保護者サービスの向上に努めてきました。さらに、一昨年度、1号保護者に「園児募集に関するアンケート」をとり、保護者のニーズの把握とそれに基づく対応策を協議しました。昨年度から始めたその対応策の実現を進めていきます。将来的には、収支均衡を実現するための定員の見直し等の対応が必要になるかと思われるため、その準備を進めていきます。

また、保育者の確保も大きな課題です。全国的な保育者不足であり、本園でも処遇の見直し等を図って確保に努める必要があります。また業務改善を図ることも急務です。学級事務の簡素化やDX推進を図る必要があります。DX推進では、ICT支援システム「コドモン」を導入し、保護者の利便性を高めてきています。今年度は「コドモン」でのドキュメンテーション機能等の活用を進めるとともに、職員の業務改善への活用を模索していきます。



尚絅大学・尚絅大学短期大学部

令和7年度 尚絅公開講座

38億年の命

ー激動の時代を生きるー

開催日 10/18(土)・25(土)・11/1(土)

対象者 男女・年齢に関係なく受講できます

受講料 2,000円(高校生以下は無料)

開催場所 尚絅大学・尚絅大学短期大学部
九品寺キャンパス大学1号館10階ホール

申込方法は
ホームページにてお知らせいたします。



【お問合せ】
尚絅大学・尚絅大学短期大学部 庶務会計課
E-mail: shomuk@shokei-gakuen.ac.jp



尚絅中学・尚絅高等学校

中高体育祭

開催日

9/26(金)

開催場所

熊本県民総合運動公園
パークドーム熊本



入試説明会

開催日

11/8(土)・16(日)

時間

9:30～

会場

尚絅中学校・
高等学校



尚絅大学附属こども園

令和7年度 こども園運動会

開催日

10/11(土)

開催場所

尚絅大学武蔵ヶ丘キャンパス
グラウンド

